

# 第14回 全日本学生 グライダー新人競技大会



前回の新人戦表彰後 KISOGAWA

主催

財団法人 日本学生航空連盟

朝 日 新 聞 社



TOYOTA

たった1回の体験が大きいのです。



キケンとはどんなものなのか安全に体験していただくために、モビリティは、サッカーグラウンド14面分の広いフラットコースや国内最大級のワインディング低ミュー路を用意しました。たとえば、高速からのフルブレーキング、真夏でも雪道のような滑りやすさを体験できる低ミュー路走行など、ふだんの道では、できない運転をしてみましょう。限界を越えたクルマの動きを知ることは、あなたの安全運転を支える大きな財産。初心者の方にもベテランの方にも、インストラクターがきめ細かくアドバイスします。

◎ モビリティの総合トレーニング

- 一般・個人向けプログラム
  - 半日体験
  - 総合トレーニング
  - 総合トレーニングⅡ
  - 総合トレーニングⅢ
  - トヨタ レーシングドライバー ミーティング
  - トヨタ レーシングドライバー ミーティングⅡ
- 企業・団体向けプログラム
  - 企業・団体1日コース、2日コースのほか、それぞれのニーズに合わせたメニューを実施するオーダーメイドコースもあります。詳しくは、直接お問い合わせください。

# トヨタ 交通安全センター モビリティ



ご予約  
詳細は

[www.toyota.co.jp/mobilitas/](http://www.toyota.co.jp/mobilitas/)

モビリティ 検索



0800-123-0250

Fax:0800-123-5250  
月～金 / 9:00～12:00 13:00～17:30  
土・日・祝日・年末年始除く (FAXは24時間受付)



トヨタ 交通安全センター モビリティは、トヨタ自動車株式会社の委託により、富士スピードウェイ株式会社が運営します。

# 第14回 全日本学生グライダー新人競技大会

平成23年10月9日(日)～10月15日(土)

岐阜県海津市 日本学生航空連盟木曾川滑空場

主催 財団法人日本学生航空連盟 朝日新聞社  
後援 岐阜県 海津市 羽島市 愛西市 日本滑空協会 日刊スポーツ新聞社  
協賛 トヨタ自動車(株) 全日本空輸(株) ユーロコプタージャパン(株)  
中部精機製作所 大垣共立銀行 トーカイフーズ 関西飛行協会  
清水医院 (順不同)

競技種目 審判委員同乗による基本操作(ウインチ曳航)

開会式 10月9日 (午前10時)  
1. 選手、役員入場  
2. 開会の辞  
3. 大会会長あいさつ  
4. 祝辞  
5. 優勝カップ返還  
6. 審判委員長指示  
7. 選手宣誓

競技 10月9日 午前10時30分から午後5時まで  
10月10日～10月14日 午前8時00分から午後5時まで  
10月15日 午前8時00分から午後2時ごろまで  
※ 雨天、強風時は中止になります

閉会式 10月15日 (午後3時)  
1. 選手、役員入場  
2. 成績発表  
3. 表彰  
4. 大会会長あいさつ  
5. 審判委員長講評  
6. 閉会の辞

大会本部所在地 岐阜県羽島市桑原町東小藪 日本学生航空連盟 木曾川訓練所宿舎  
本部 Tel 058-398-8835  
問い合わせ 日本学生航空連盟事務局 Tel 03-6206-1235

# 大会役員

大会会長	日本学生航空連盟会長 東京大学名誉教授			佐藤 淳 造
副会長	日本学生航空連盟専務理事			吉田 正 克
	朝日新聞社航空センター長			軸 屋 忍
	日本学生航空連盟関東支部長 東海大学航空部長			利根川 豊
	日本学生航空連盟東海支部長 名古屋大学航空部長			中村 佳 朗
	日本学生航空連盟関西支部長 大阪大学航空部長			那須 正 夫
	日本学生航空連盟西部支部長 熊本大学航空部長			宇佐川 毅
参 与	日本学生航空連盟加盟大学航空部長（23年4月現在）			順不同
関東支部	青山学院大	小川 武史	中央大	中西 又三
	法政大	日高 光信	関東学院大	阿久津敏乃介
	早稲田大	内田 健康	学習院大	草野 芳郎
	東京大	寺本 進	東京工大	北條 春夫
	東京理科大	溝口 博	首都大学東京	小島 広久
	慶応義塾大	足立 修一	明星大	緒方 正幸
	日本大	川島 孝幸	工学院大	伊藤 慎一郎
	立教大	佐藤 大祐	防衛大学校	尾上 定正
	信州大	岡本 正行	東北大	伊藤 高敏
	東京海洋大	刑部 真弘	慶応義塾高	内田 浩章
	千葉工業大			
東海支部	名古屋工大	森西 洋平	岐阜大	高橋 周平
	南山大	鈴木 敦夫	名城大	前田 隼
	愛知学院大	蛸島 直	三重大	福田 和展
	愛知工大	中山 雄行	中日本航専	多羽田 勝典

関西支部	関西大	後藤 健太	関西学院大	永田 彰三
	立命館大	木股 雅章	同志社大	山口 博司
	大阪府立大	辻川 吉春	京都大	永田 雅人
	大阪工大	羽賀 俊雄	大阪電通大	竹田 晴見
	神戸大	細川 茂雄	龍谷大	岸本 直之
	福井大	酒井 康行	大阪市立大	南 繁行
	京都女子大	酒井 貴雄	関西外大	鈴木 誠一
	平安女学大	松尾 光洋	大阪産業大	加藤 義和

西部支部	福岡大	香野 淳	福岡教育大	堺 正之
	熊本県立大	梅林 誠爾	九州大	東野 伸一郎
	九州工大	赤星 保浩	日本文理大	藤本 達見
	西南学院大	藤本 滋之	北九州市立大	後藤 尚久
	宮崎大	菊池 正憲	崇城大	坂口 行治

## 大会実行委員

実行委員長	日本学生航空連盟	事業担当	土屋 宣幸
実行副委員長	日本学生航空連盟	事務局長	深 田 浩
総務委員長	日本学生航空連盟	同志社大学OB	太田 泰史
競技委員長	日本学生航空連盟	教育訓練部長	中村 暢宏
競技委員	〃	木曾川訓練所長	田口 昇
〃	〃	妻沼訓練所担当教官	熱海 尚裕
〃	〃	木曾川訓練所担当教官	宮地 隆昌
整備委員長	日本学生航空連盟	木曾川訓練所長	田口 昇
整備委員	日本学生航空連盟	東海・関西支部	学生委員
審判委員長	日本学生航空連盟	教育訓練部長	中村 暢宏
審判委員	〃	木曾川訓練所長	田口 昇
〃	〃	木曾川訓練所担当教官	宮地 隆昌
救護委員長	日本学生航空連盟	同志社大学OB	太田 泰史
救護委員	日本学生航空連盟	東海・関西支部	学生委員

学生運営委員長	関西支部委員長	大阪大学	谷垣 直人
学生運営委員	東海支部委員長	名古屋大学	堀 雄一
〃 (ピスト)	関西支部副委員長	龍谷大学	朝日 翔太
〃 (サブピスト)	東海支部副委員長	名古屋工業大学	伊藤 惇

## 出 場 選 手

支 部 名	ゼッケンNO	氏 名	学 年	大 学 名
<u>東海支部</u>	1	延 山 龍 介	②	名 古 屋 大 学
	2	後 藤 匠	②	〃
	3	浅 井 孝 太	②	名 古 屋 工 業 大 学
	5	属 増 拓 実	②	〃
	6	山 下 和 範	②	岐 阜 大 学
	7	関 根 尚 久	②	〃
	<u>関西支部</u>	8	楠 原 康 大	①
9		林 義 弘	②	関 西 学 院 大 学
10		山 本 亞 実	②	〃
11		藤 山 友 治	②	大 阪 大 学
12		城 戸 悠 太	②	同 志 社 大 学
13		窪 田 倫 子	②	〃
14		織 田 加 瑠 奈	②	龍 谷 大 学
15		松 原 創 志	②	〃
16		谷 一 慶 亮	①	京 都 大 学
17		東 野 行 広	②	〃
18		伊 納 洋 佑	②	関 西 大 学
19		高 島 和 輝	②	〃
20		堀 内 伸 剛	①	大 阪 工 業 大 学
21		園 山 友 紀	①	〃
22		阪 本 洋 輔	②	関 西 外 国 語 大 学
23		室 塚 晴 之	②	〃
24		坪 井 康 樹	②	立 命 館 大 学
<u>関東支部</u>	25	平 田 昴 之	②	立 教 大 学
	26	中 島 理 佐	②	〃
	27	前 川 啓	②	東 海 大 学
	28	大 石 実 咲	②	青 山 学 院 大 学
	29	宮 地 明 日 香	②	〃
	30	古 田 洋 一 郎	②	早 稻 田 大 学
	31	風 間 勇 輝	②	〃
	32	近 藤 一 成	②	工 学 院 大 学



支 部 名	ゼッケンNO	氏 名	学 年	大 学 名
	33	小 林 昇太郎	②	防 衛 大 学 校
	34	松 葉 祐 亮	②	〃
	35	荒 木 翔 太	②	慶 應 義 塾 大 学
	36	萩 原 大 樹	②	〃
	37	原 健 人	②	中 央 大 学
	38	坂 井 洋 子	②	東 京 大 学
	39	森 久 雄 平	②	〃
	40	田 村 紘 務	②	学 習 院 大 学
	41	小 暮 啓 太	②	法 政 大 学
	43	塩 入 悠 一	②	〃
	44	小早川 侑 太	②	日 本 大 学
	45	鈴 木 貴 大	②	〃
<u>西 部 支 部</u>	46	小 森 就 航	②	福 岡 大 学
	47	藤 康 行	②	〃
	48	渡 口 俊 彦	②	九 州 工 業 大 学
	49	大 石 楓 夏	①	〃
	50	清 水 風	②	九 州 大 学
	51	二 岡 優 子	②	〃

★ 28大学49人（うち女性8人）

★ ゼッケンNO4、42は欠番



# 新 人 戦 規 定

## 【総 則】

第1条 本競技会は日本学生航空連盟全日本学生グライダー新人競技大会（以下 新人戦という）と称する。

第2条 本新人戦は財団法人 日本学生航空連盟（以下 連盟という）寄付行為第4条の定めるところにより、競技を通じて学生グライダースポーツの向上と健全なる心身の育成をはかり、もって航空文化の発展と体育の振興に寄与することを目的とする。

## 【本 部】

第3条 本新人戦は本部を新人戦開催地におく。本部は本新人戦の運営を統括する。

第4条 本新人戦には次の役員をおく。

会長1名、副会長5名までとする。

会長は本新人戦の運営を総理し、本新人戦のすべての事務を統括する。

副会長は会長を補佐し、会長に事故があった時は、その1名はその職務を代行する。

## 【顧問 参与】

第5条 本新人戦には、顧問および参与をおくことができる。顧問は会長の相談に応じ、参与は新人戦の運営に参与する。

## 【委 員】

第6条 本新人戦の事務を処理するため、本部に実行委員、総務、競技、整備、審判、救護ならびに学生運営の各委員を若干名おく。各委員は次に定める事務分掌に従って、所管の事務を処理する。

第7条 総務委員は次の事務を分掌する。

- (1) 一般庶務に関する事項
- (2) 新人戦の経理に関する事項
- (3) 設営に関する事項
- (4) 招待、渉外に関する事項
- (5) 警備に関する事項
- (6) 広報に関する事項
- (7) 他の所管に属さない事項

第8条 競技委員は次の事務を分掌する。

- (1) 競技の進行に関する事項
- (2) 競技用機材に関する事項
- (3) 気象に関する事項
- (4) 競技記録に関する事項
- (5) 放送発表に関する事項
- (6) 運営管理全般に関する事項

第9条 整備委員は次の事務を分掌する。

- (1) 滑空機等の整備に関する事項
- (2) 機材、競技用具、資材、工具等の整理
- (3) 機材の修理に関する事項

第10条 審判委員は次の事務を分掌する。

- (1) 競技の審判に関する一切の事項

第11条 救護委員は次の事務を分掌する。

- (1) 救護に関する全般の事項
- (2) 出場選手の健康管理に関する事項

第12条 学生運営委員は次の事務を分掌する。

- (1) 総務、競技、整備および救護の各委員を補佐する
- (2) 宿舎、食事に関する事項

#### 【参加資格】

第13条 本新人戦の参加資格は次に定める。

- (1) 本連盟加盟大学航空部員であること
- (2) 在学2年以内であること（休学年数は含まない）
- (3) 休学中でないこと
- (4) 有効な技能証明、航空機操縦練習許可書を所持する者
- (5) 本連盟諸規定に違反しないもの

#### 【チーム編成】

- 第14条 (1) 1チームの選手は2人以内とし、補欠を含めて4人まで登録することができる。
- (2) 1校1チームまでとする。

# 新人戦競技規則

## 【総 則】

1. この規則は日本学生航空連盟全日本学生グライダー新人競技大会（以下新人戦という）における競技の運営について定める。
2. この規則は新人戦の競技種目、実施の方法および各種競技の成績順位を定め、新人戦の適切な運営を図ることを目的とする。

## 【競技種目】

3. 競技種目は次の通りとする。
  - (1) 基本操作
  - (2) 空中応用操作
  - (3) 総合能力
  - (4) 指定地着陸

## 【参 加】

4. 競技に参加する選手はチームを編成し、チームごとに指定の申込書により申し込むものとする。

## 【発航権】

5. 発航権は選手単位で有する。発航の順位は抽選により決める。

## 【競技機材】

6. 競技機は、アレキサンダーシュライハー式ASK-13型とASK-21型とする。
7. 競技機は、有効な耐空証明を有するものでなければならない。
8. 競技機、トレーラー、無線機など必要な機材は、東海・関西支部学生委員会で準備する。

## 【保 険】

9. 競技機には参加者の負担において、第三者賠償責任保険、機体保険および搭乗者傷害保険もしくは旅行傷害保険に加入契約するものとする。

## 【競技の運営】

10. 競技はすべて競技委員の指示に従って行う。
11. 競技は出場した選手のすべてが、規則6の競技機ごとに1回の発航を終えたとき成立する。
12. 競技機の飛行は離陸によって始まり、着陸をもって終了し、その成績は発航準備に始まり、着陸によって終了する。
13. 競技中における指示、連絡、通報などは原則として、滑空訓練用携帯無線機を使用する。
14. 策切れ、ウインチトラブル等正常な発航ができない場合は、選手の意志により再飛行することができる。

## 【飛行成績】

15. 競技者の成績は、同乗の審判委員が別に定める採点様式に基づいて決定する。

## 【表 彰】

16. 次に定める計算方式により、得点最高位から6位までの団体、個人を表彰する。

(1) 団体成績

各選手の個人得点の合計をもってチーム得点とする。ただし、1人でチームを構成している場合には、団体成績は考慮されない。

(2) 個人成績

選手全員が同一審判委員による競技飛行を終了した時、その飛行が有効とされ、有効な競技得点の合計をもって個人得点とする。選手が自分の発航を棄権した場合には、その飛行得点は零点として計算する。

**【審判】**

17. 審判委員は競技者の順位別に関する諸問題を決定し、緊急問題を裁断する。

**【飛行の安全】**

18. 競技会期間中の飛行はすべて航空法、令、規則および日本学生航空連盟訓練関係諸規則により、安全に行わなければならない。

19. 競技機が着陸のため進入する時は、運航管理委員の指示に従うものとする。

20. 競技者は、飛行安全のために万全を期さなければならない。

**【補則】**

21. 緊急の場合はこの規則にかかわらず、競技者は自己の安全のための最善の方法をとることができる。

## 第14回 全日本学生グライダー新人競技大会 細則

1. この細則は、新人戦競技規則（以下、規則という）に基づき「第14回全日本学生グライダー新人競技大会」の運営に適用する。

2. 規則3に規定する指定された課目は、次のとおりとする。

	発航準備、ウインチ曳航、離脱、直線滑空と旋回*1 場周経路の飛行、着陸、指定地判定
	低速飛行、急旋回、失速と回復操作、最小沈下速度による滑空、最良滑空比速度による滑空、ソアリング、対地目標を中心とした旋回
総合能力	計画力・判断力、対空警戒

注 各課目の実施要領は、自家用操縦士の技能審査実施細則による。

\*1 直線滑空と旋回は場周に入るまでの飛行について採点する。

\*2 空中操作は飛行ごとに2課目選択する。課目の実施、やり直し、変更はその都度審判に告げる。

3. 規則16の採点様式は、別紙の採点票とし、採点要領は、次のとおりとする。

項目	適用	備考
採点	各課目ごとに10点満点で採点する 円滑かつ正確である 9.0～ 安定している 7.0～8.9 アドバイスが必要 5.0～6.9 操縦の補助が必要 3.0～4.9 危険を伴う ~2.9	採点は0.1点より細かくしない
指定地判定	減点法とする ロングの場合 減点2 横へ外れた場合 減点2 ショートの場合 減点5	ショート側は機体が最初に接地した地点、 ロング側は主輪が接地した地点で判定する (地上判定員の判定による)
審判委員	公平さを保つため原則として審判委員 と機体をラウンド終了まで固定する	

4. その他

- (1) 競技機以外の航空機は競技の進行中に、競技に影響を及ぼす可能性のある飛行を行ってはならない。
- (2) 競技期間中、競技委員の行うミーティングには各チームリーダーが必ず出席しなければならない。ミーティングの際、指示する飛行上、安全上の事項および競技運営に必要な事項は補充規則とみなされる。

# 第14回 全日本学生グライダー新人競技大会 採点票

ラウンドNO. \_\_\_\_\_ 飛行日 \_\_\_\_\_

競技機 ASK13/ASK21 R/W 36/18

選手 \_\_\_\_\_ 審判 \_\_\_\_\_

課 目		採 点 (0~10)
基本操作	1. 発航準備 2. ウインチ曳航 3. 離脱 4. 直線滑空と旋回 5. 場周経路の飛行 6. 着陸	_____ _____ _____ _____ _____
空中操作 (2課目実施)	1. 低速飛行 2. 急旋回 3. 失速と回復操作 4. 最小沈下速度による滑空 5. 最良滑空比速度による滑空 6. ソアリング 7. 対地目標を中心とした旋回	_____ _____
総合能力	1. 計画力・判断力  2. 対空警戒	_____ _____
	ショート-5      ロング-2 横ずれ-2	_____
得 点		

採点の目安：

円滑かつ正確である	9.0～
安定している	7.0～8.9
アドバイスが必要	5.0～6.9
操縦の補助が必要	3.0～4.9
危険を伴う	～2.9

## 〔大会小史〕

第1回成績	個人の部 団体の部	優勝 優勝	有坂 徹 大阪大学	(慶應義塾大学)
第2回成績	個人の部 団体の部	優勝 優勝	中西 裕介 慶應義塾大学	(慶應義塾大学)
第3回成績	個人の部 団体の部	優勝 優勝	高戸 直之 慶應義塾大学	(慶應義塾大学)
第4回成績	個人の部 団体の部	優勝 優勝	五十嵐 健大 慶應義塾大学	(慶應義塾大学)
第5回成績	個人の部 団体の部	優勝 優勝	盛谷 法浩 早稲田大学	(慶應義塾大学)
第6回成績	個人の部 団体の部	優勝 優勝	山木 泰 慶應義塾大学	(慶應義塾大学)
第7回成績	個人の部 団体の部	優勝 優勝	大堀 宏海 慶應義塾大学	(慶應義塾大学)
第8回成績		(中 止)		
第9回成績	個人の部 団体の部	優勝 優勝	伊村 隆宏 慶應義塾大学	(慶應義塾大学)
第10回成績	個人の部 団体の部	優勝 優勝	松居 史晃 慶應義塾大学	(慶應義塾大学)
第11回成績	個人の部 団体の部	優勝 優勝	後藤 真徹 慶應義塾大学	(慶應義塾大学)
第12回成績	個人の部 団体の部	優勝 優勝	小林 聡一 慶應義塾大学	(慶應義塾大学)
第13回成績	個人の部 団体の部	優勝 優勝	堀 雄一 慶應義塾大学	(名古屋大学)
第14回成績	個人の部 団体の部	優勝 優勝	? ?	( ? 大学)



